

平成26年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

1 (3) 「孝行教訓歌」を読む (全)

防府市内田家文書 和漢
28

内田家文書
和漢

孝の教訓歌

序

予問父夫學為何耶曰明人倫要也其本
始自於孝而後德教則刑四海也故汝常
能慎而以勿忘之若亦汝教亦村童必先
示孝道是則生前常之教也予然予雖不
學仍父之遺澤村童來而學田家之兒童

輒不能得聖賢之大道。今顧父之遺命不
顧賢者之朝。詠蜂腰四十有餘首。而以門
人示其本。且欲備賢者之清眼。備希添劑
而已。

于時安政三歲丙辰秋九月

學誨園之主 獨陽謹誌

心家子の信よんすん

親の意悉く承け他法を

志すせんうすん

我れは手廻り信よ

業を志すんうすん

業を志すんうすん

讀物や手紙をいかに

讀むか手紙をいかに

書かすか

讀むか手紙をいかに

書かすか

解ふ様か

能く揚子を親より

書かすか手紙をいかに

親の状に

情すと揚子此家親

書かすか手紙をいかに

親の状に

千重子一南朝日記

其父家系一宗也

此子書也

手書又此也

度之可親に對して

挨拶と世に

新に一結立し

流の毛乃

新に一結立し

常可存病此時

程此に可

公存世に

人の子は神の子

孝の心は親の心を敬ぶ

孝は徳の母

孝行は徳の母と云ふ

父母の孝行の

道は徳の母

父母の孝行の

道は徳の母

孝は徳の母

孝の心は親の心を敬ぶ

孝行は徳の母

孝は徳の母

孝行を先と教へ
才を備へしは

親の毒を

世の中に悪事極く

あけぬと其大罪な

り孝ありけり

孝行の一篇極く

孝行の一篇極く

孝行の一篇極く

唐土の二十四孝

孝行の一篇極く

孝行の一篇極く

高次にあつたかたす

高次にあつたかたす

仕事はあつた

父母の愛はあつた

高次にあつたかたす

仕事はあつた

父母を子に成長

高次にあつたかたす

仕事はあつた

我が仕事はあつた

高次にあつたかたす

仕事はあつた

物盗と盗花は盗花は盗花
盗花は盗花は盗花の
本を盗る盗花

子の盗る親の母
親の盗る母の母
可貴なる盗花

父母の盗る盗花
盗花は盗花は盗花の
盗花は盗花は盗花の
盗花は盗花は盗花の
盗花は盗花は盗花の

父母の使ひを
遊りて用事済
速く戻りて

孝の心を
忠業の世に
仁業を成せ

忠言四十卷
事親存
為君討仇

忠孝の業
只十七世末の世
或は乃始

養老龍水變酒

其徳の
老と

藿や菘や菜の旨し

子路 百里北道は重なる

養親 親と重なる

母の旨し

孟宗泣竹 羊毛雪化已けぬ

堰あしけぬ

母の旨し

王祥割氷 魚氷はとに

裡と躍る

母の衣乾す

関子書 孝の又母と重なる

三子均す

恐しやも孝は報ひるべし
夫甚四封現娘面なる

未だ其清るし

き句くは聖の教

多るを道と先づかへ

親より孝行

世の中此位乃其本

幼きより唯孝行の

二字の甚くありて其原

本朝 孝子傳曰 神傳ハ孝人と云

兩親即是 内宮外宮神明 孝女等不善 孝之而祈求於外乎

親と云ふは

父母可孝行を以て
人を知る神傳は獲り

憐愍甚く可なり

永くくく永く此物に

身体髮膚不毀傷

孝之始也

身を以て父母を敬ふ

親の徳を以て

孝は乃て字と云ふ也
人を知る人を知る

孝の徳

孝の徳を知る人

不孝して禽獣なり

孝の徳を知る人

抑海一也尊支原乃

五刑之屬也
而早莫大
於不孝

命之公二千乃身之

重死而孝也

孝經乃古之至也

朱子就傳授以孝經
一闕題其人

卷人可為之

上曰不若是非人

朱子乃建之

